

## 令和7年度第3回八潮市学校適正配置指針・計画策定委員会について

開催日時：令和8年2月3日（火）午後2時00分～午後4時00分

開催場所：八潮市役所大会議室

公開状況：公開

傍聴者数：3名

審議結果：下記のとおり

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 連絡事項

### 八潮市学校適正配置指針・計画の見直しに係る説明会について

- ・資料に沿って事務局から説明

4. 議事

#### (1) 八潮市学校適正配置指針・計画（案）について

- ・資料に沿って事務局から説明

#### 【質疑応答等】

**委員** : 我々の委員会は、学校の配置に関する現状と現実、将来推計を踏まえ丁寧な議論をしている。また委員がそれぞれの立場から意見を述べている中で、意見の集約を図りながら、これからのあるべき姿を見出そうと議論していると認識している。説明会の議事録を読むと、そのようなことが理解されておらず、批判的な意見があることが残念である。集約した意見の最終的な決定は教育委員会が行うことを念頭に、委員としての立場を踏まえながら意見を出していきたい。

**委員** : 説明会の議事録を読んでもらうと、温度差があることを感じた。質問は相当あったと思う。出席された方がほぼ全員質問されたのか。

**事務局** : 11月23日は参加者8名となっているが、ご意見・ご質問は30件程度で、このうち質問をしていたのは3名程度だった。別の説明会も同様に、全員が発言されたわけではない。

**委員** : 保護者と町会・自治会を分けて説明しているが、保護者向け説明や町会・自治会向け説明会は3校合同で行ったのか。どのような方が参加の対象だったのか。

**事務局** : 保護者は八條小学校・八條北小学校・八條中学校の3校と、今後、八條小学校若しくは八條北小学校に入学予定の

未就学児の保護者を対象に合同で行い、町会・自治会は3校の通学区域の町会・自治会に案内し合同で行った。

委員 : 保護者への開催通知は学校から案内が配られたのか。参加して感じたことは、反対の人が多く、賛成の人や中学校の場合だと卒業後の一貫校になるため、そういった方の関心が低く、参加率が低かったのではないか。

事務局 : 保護者の方には、学校を通じてお知らせしている。

委員 : 反対の意見も多く出ているが、町会・自治会の説明会では、一部賛成の意見も出ている。説明会以外の場で、直接寄せられた問い合わせなどはあったのか。

事務局 : 町会の方で、統合に賛成しているという趣旨でお手紙をいただいた。大きな項目として、「八條小・八條北小・八條中の3校の統合はできるだけ早期に実施すべきである。」「複式学級は絶対に回避するべきである。」「部活動の選択肢を広げるべきである。」「制度が廃止になっても小規模特認校制度のメリットを継続することに賛成である。」という内容であった。教育委員会事務局にも、八條地区にお住いの方から、公式の場ではないが、「賛成する」「やむを得ない」などの意見をいただいたことがある。

委員 : 説明会の雰囲気はどうだったのか。全員が反対していたのか、賛成の人もいるけれども言いづらい雰囲気だったのか。

委員 : ピリピリしたものではなかった。私が参加した時に、陳情書を提出した方がいたが、その陳情書の内容は誰が検討するのか。

事務局 : 要望書という形で、お名前も入っており、教育長宛のものだった。教育委員会で預かり、教育委員会に対する要望であると捉え、教育委員会から回答する。

委員 : 説明会の雰囲気については、どちらかというとな賛成する人はあまりいなかった。市側の説明不足を突かれていた印象である。

委員 : 今後も説明会を開催すると思うが、ここで決まったことと説明会でもらった意見をすり合わせていくということか。

事務局 : 説明会の開催も含めて、今後については現時点で未定である。説明会はこの2年間で相当な回数を開催してきており、意見をいただいて、最終的な判断の段階にある。

委員長 : 前回までの話の中では、小規模特認校で人数を増やすことを考えたが、教育的効果はあったものの人数を増やすところには至っていないと、小規模特認校以外の策を考えなければならぬという話になり、統合の方向に動いている。ス

クールバスを南の方から等も考えたが厳しい。教職員の増員も考えられなくはないのだが、県あるいは国から配置人数が決められているため、簡単なことではない。会議の話を総合すると統合しかないのではないかと考える。

委員 : 説明会の議事録の最後に、策定委員会で説明会の意見や雰囲気をしっかり伝えていただきたいという要望があったが、私は伝わった。反対、賛成、いろいろな意見があると思うが、少数かもしれないが賛成の意見もある。やはり複式学級が直近の問題になっているなかで、それは避けなければならない。教育を同じレベルでやりたい。同じ市内で、北部と南部でこれだけ違うことに関して、できることは何かと言ったら、統合をこのスケジュールで進めて、教育委員会には細かな説明をしていただく。花桃小学校のときもそうだったが、メリット・デメリットがいろいろある中で、「こういう形で前に進めましょう」と教育委員会の方から細かい説明していただければ、北部の方にも分かっていたらと思う。なんとかこのスケジュールで考えて進めていただければと思う。

委員 : 統合に関しては問題ないと思うが、説明会の参加人数が少なくないか。それだけ関心があるのか、数字を見て思った。もう少し参加者がいれば、いろいろな意見が出たのではないか。説明会の議事録をみて、反対、賛成、いろいろな意見があるが、それは大事なことだと思う。最終的には、複式学級にならないようにしたほうがいいのではないか。

委員 : 説明会の日にちが偏っている印象である。もう少し分散していると、情報が早く伝わるのではないか。説明会やホームページ、その他の情報伝達があると思うが、早めの情報伝達、伝え方が大事だと考える。

委員 : 説明会の議事録の10ページにもあるように、当事者の子ども・保護者の巻き込み不足が初動として大きかったのかもしれないと感じた。もう少し具体的に、保護者の方や子どもたちにイメージを伝えられたら、理解を深めてもらえたのではないか。

委員 : 統合する形になると思うが、保護者の方たちには、どういう風になるのだろうかという不安があると思う。理想的な小中一貫校をつくって安心して通わせられるような取り組みをしてくださいと説明会の議事録に書いてあった。これから統合に向けて動いていくのであれば、その過程を保護者

にも伝える方が、安心して、反対していた人も協力してくれるようになるのではないか。

委員長 : 保護者や子どもの不安を解消するためには説明が必要で、それを早め早めにやることによって通わせたい一貫校になると考える。スケジュール通りに進むように、我々も協力できることはしていきたい。複式学級では学校教育の質が下がってしまう、コミュニケーション能力が落ちてしまう、2学年を1人の教員が見るというありえない状況となる。1つの学年を対応している間、もう1つの学年はちょっと待っていてね、という風になる。そうすると子どもたちの教育としてどうなのかなというところもある。それを回避するためには、別の策を講じる必要がある。保護者、地域の方、いろいろな考えがあるため、それを少しでも改善できる策を見つけて動いていく必要があると考える。

## (2) 八潮市学校適正配置指針・計画 北部地区個別計画(案)について

・資料に沿って事務局から説明

### 【質疑応答等】

委員 : 八條北小学校の新年度の児童数の見込みをお聞きしたい。

事務局 : 今現在の状況は、4月までに日があるので状況が変わるかもしれないが、通常学級は、新1年生15人、新2年生8人、新3年生9人、新4年生8人、新5年生16人、新6年生14人、合計70人である。特別支援学級は3人である。教育長からも話があったが、新2年生の8人、新3年生の9人、新4年生の8人のうち、どなたか1人が転校すると複式学級を満たす人数となってしまうということである。これまでの説明では、令和8年度以降、数年間は複式学級を避けられそうだという説明をさせていただいていたが、2学期末に新1年生の見込みを含め5人が転居し、一気に人数が減ったため、厳しい状況になっている。

委員 : いよいよ統合が現実味を帯びてきている。新1年生向けの入学説明会があったと思うが、統合する・しないが確定していない段階の説明会だったと思う。統合が確定した場合、八條北小に行こうと思っていた保護者は、今のうちから八條小に行きたい、ということもあると思うが、今から変えることは可能なのか。

事務局 : 基本的には前倒しではなく八條北小学校に通っていただきたいと考えているが、各家庭のご事情をお聞きし、個別の判断を行っている。

- 委員 : 入学説明会は終わっているが、この件に関しての話はない。また、学区外から通う希望の新1年生もいる。
- 委員長 : こちらも説明は早めに行った方が良いのではないか。
- 委員 : 保護者に対しては、不安を置き去りにしてはいけないと考える。現実的なことも考え、丁寧な対応が事務局に求められる。
- 委員長 : 統合が決定したわけではなく、教育委員会の会議を通して決まることなので、まだ時期として早いですが、説明会を開催しているのになんとなく伝わっていると思うが、全保護者が地域の説明会に来ているわけではないので、丁寧な対応が必要だと考える。
- 委員 : 北部地区個別計画の10頁(3-1)に、「普通教室が余剰となっている」という文言がある。これが28頁の(2-3)にある「現在の八條小学校の最大普通教室数は24教室であるため、特別支援学級を考慮しても、統合後の現在の八條小学校の普通教室が不足することはない」とある。余剰というのは、12学級の余剰があると捉えてよろしいか。
- 事務局 : 通常学級が12学級で、特別支援学級が3学級、合計で15学級。最大教室数が24なので、24-15で9となる。余剰教室は9という見方をしていただきたい。
- 委員 : 質問の意図だが、余剰はあるけれども、先ほどの説明会の議事録の1頁に、「令和8年度に八條小学校の校舎内に2教室分の学童を設置する」とある。それから、「メモリアルルームを設置する」と北部地区個別計画の30頁にある。それから、特別支援学級は学級数に入っていないということだが、特別支援学級が増えるという話も聞いている。それから、学校では普通教室を活用して更衣室を設置する場合や、少人数指導をするために普通教室を使うこともある。数字上は足りているが、学校運営上に支障はないのかと思った。また、32頁では令和8年度に統合準備委員会を設置するとなっており、その内容として統合校の名称、校章、校歌、学校行事、PTA組織、通学手段などを検討、協議するとあるが、統合準備委員会でこれらの内容を検討、協議するという捉えかたでよろしいか。
- 事務局 : 八條小の中に八條北小の児童が入る場合、普通教室が不足することはないが、学校運営上に課題がある、特別教室が足りなくなる可能性は検討しており、中学校校舎を新設するなかで、小学校も共用できるような特別教室、会議室等の設置を検討したい。統合準備委員会は統合校の名称などを検討する場であり、決定は教育委員会や、仮に統合校の

名称が変わる場合は条例改正が必要になるため議決が必要になる。統合準備委員会はいくまで準備、検討、あり方を協議していく場である。

- 委員** : 統合校の名称も、変わるかもしれないということか。
- 事務局** : その点も含めて今後の検討事項となる。統合準備委員会の中で考えていくことである。
- 委員** : 実情からすると大きなところとなるため、慎重に進めていただきたい。
- 委員長** : 先ほど事務局からあったが、2年生、3年生、4年生で転校があると複式学級になってしまう可能性もある。そういった状況を踏まえながら、保護者や子ども、一番は子ども、環境が変わることで、八條北小だから通えているという子どももいるだろうし、そういった家庭のケアもしていかなければならない。そのために我々に協力できることは協力していきたい。

## 5. その他

全体計画、個別計画は、2月16日から3月17日にパブリックコメントを予定している。パブリックコメントの結果は次回の策定委員会で報告する。

議事録は市のホームページで公開する。

次回の策定委員会は次年度の4月以降を予定する。